

2024年5月18日

第7地对艦ミサイル連隊本部 御中

申し入れ書

改憲・戦争阻止！大行進 沖縄

3月21日、陸自勝連分屯地に第7地对艦ミサイル連隊が発足した。これは敵基地攻撃能力を持つミサイル連隊であり、石垣・宮古など南西諸島のミサイル部隊を指揮統制する連隊本部も置かれる。

陸自第7地对艦ミサイル連隊とは、米国の対中国侵略戦争計画である遠征前進基地作戦（EABO）の重要な環を担う部隊であり、中国との戦争では中国艦船とミサイルを撃ち合い、戦域を制圧し、中国本土へ攻め上げるためのミサイル部隊として想定されている。そして中国本土への攻撃が可能な長射程距離ミサイルの配備も計画されているのだ。ミサイル連隊は岸田政権や防衛省が言う「国民の声明と財産を守る」ためではなく、「国際秩序を変える意図とそれを実行する経済力、軍事力、技術力を備えた唯一の競争相手」「ロシアを抑えつけ中国を打ち負かす」（22年米国家安全保障戦略）とあるように米国の世界支配、国内危機から生き残るための戦争だ。過去の帝国主義が生き残るために世界大戦が行われたのとまったく同じ状況だ。

4月10日、日米首脳会談が行われたが、そこでも「日米安保同盟発足以来、最も重要なアップグレード」、「（米軍と自衛隊の）共同作戦遂行のために不可欠な指揮権の完全な一体化」が言われ、ここでも陸自ミサイル連隊が米軍とともに中国侵略戦争を行うことを鮮明にしている。沖縄を再び戦場にし、沖縄労働者民衆の血の犠牲の上に侵略戦争をすることを前提にしている。絶対に認めることはできない。

日米の中国侵略戦争策動、沖縄の軍事要塞化、そして陸自ミサイル連隊への怒りは激しく吹き出している。3月30日の勝連分屯地第七地对艦ミサイル部隊発足の記念式典では、正門から1キロ区間の車道を封鎖し、機動隊を導入して、ミサイル連隊発足に実力で反対する沖縄労働者民衆を弾圧した。琉球弧、沖縄全体への軍事要塞化が激しくすすめられているが、中国侵略戦争に反対する沖縄の反戦の意志は消えるどころか、ますます激しくなっている。4月11日には労働者民衆の戦争絶対反対の怒りが、うるま市陸自訓練場建設を断念させた。

改憲・戦争阻止！大行進沖縄は、この沖縄労働者民衆の戦争への怒りをさらに解き放ち、岸田政権の打倒、中国侵略戦争を絶対に阻止する。

最後に訴えます。自衛官は中国侵略戦争への侵略の銃をとるな。帝国主義・資本主義の延命のために、使い捨て、犠牲になるのは自衛官だ。戦争を引き起こす政府こそ倒すべき相手です。

よって申し入れる。

- 一、陸自勝連分屯地第7地对艦ミサイル部隊を解散・解消すること
- 一、琉球弧、沖縄の軍事要塞化を中止すること。
- 一、自衛官は侵略の銃をとるな。中国侵略戦争へ参加を拒否しよう。労働者民衆と共に侵略戦争反対の声をあげよう。

以上